

Multidetector-row CTによる狭心症の診断

時間の流るる速度はますます速くなり、今日の出来事はあっという間に過去のものとなり、医療の世界はまるで過去に追いつけられながら、必死に先へ先へと急いでいるかのようです。

心臓画像診断の歴史は20世紀初頭のレントゲン博士による放射線の発見に始まります。これはノーベル賞受賞という輝かしい栄誉とともに、我々人類が忘れることのできない偉大な業績のひとつです。その後、放射線は人類の全ての臓器における画像診断に応用され、心臓においては1940年代後半に心臓カテーテル法が出現しました。これはその後、カテーテルを用いた冠動脈造影法の開発に発展し、心臓疾患の画像診断や治療に画期的な改革をもたらしました。さらにこの流れは、患者さんにとって侵襲度を低減する方向へ向けられ、次の世代の展開をみせることになりました。この大改革を担ったのがMultidetector-row CT(以下MDCT)の開発と進化です。

CT(Computed Tomography)はその開発以来、脳や肝臓など動かない臓器の画像診断においては極めて有用であると高い評価を受け、臨床の現場で必要不可欠な検査として大いに活用されてきました。しかし、心臓は絶えず拍動しているため、冠動脈の鮮明な画像を得ることができず、実用に至りませんでした。これに光明を与えたのがMDCTの出現であり、この開発によってカテーテルを用いずに、上肢の皮静脈から造影剤を注入するだけで、冠動脈をはじめとする全身の血管画像を鮮明に描出することが可能となりました。当院にもGE社製の64列MDCTという高性能の装置が導入されて以来、数多くの冠動脈CT検査を施行しており、MDCTによる冠動脈CT検査が狭心症の診断に必要な不可欠なものとなっています。

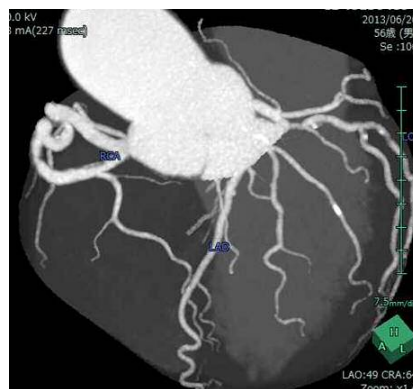
狭心症の大部分は動脈硬化により心臓を栄養する冠動脈に狭窄が生じるために起こります。狭心症を予防するには、禁煙、塩分・糖分・脂肪分の取り過ぎに注意し、高血圧・糖尿病・高脂血症を予防すること、ストレスを避け、規則正しい生活を送ることなどが重要です。「胸がしめつけられる、みぞおちが痛み、肩が痛い、背中が痛い」といった多彩な症状を呈します。通常の造影CTと同じ程度の低侵襲な検査ですので、狭心症が心配な方は、まず当院の循環器内科を受診してから、MDCTによる冠動脈CT検査を受けることをお勧めします。



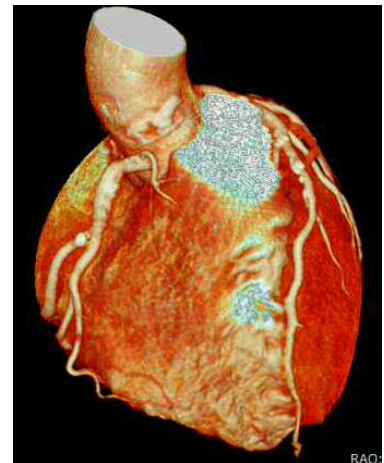
放射線科
松橋 医師



当院の64列MDCT



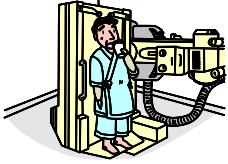
MDCTによって得られた冠動脈像



人間ドック 胃バリウム検査について

胃バリウム検査は正式には上部消化管造影検査といいます。食道、胃、十二指腸の病気の発見と診断のために行われます。特に食道がん、胃がん、胃、十二指腸潰瘍の診断に欠かせない検査です。通常のX線検査と違うのは、バリウムを飲んで、発泡剤で胃を膨らませて撮影するという点です。胃を膨らませて、胃の内面にバリウムを塗りつけた状態になるので、胃壁などに生じた病変を早い段階で発見することができます。

前日夜から絶飲絶食の状態での検査になります。バリウムと発泡剤を飲むと、胃の中では発泡剤から発生した炭酸ガスで胃が膨らみ、バリウムが内壁のほうへ押しやられて付着します。胃の内壁をしっかりと写すためには、薄くまんべんなくバリウムを付着させる必要があります。そのため、透視台を動かし、受診者自身に体の向きを変えてもらい、バリウムを胃の中で動かし、胃の内壁全体にバリウムが行き渡るようにしています。検査に要する時間は 10 分程度です。受診者の理解と協力が不可欠であり、胃がんの早期発見のためにも年に 1 度は受けてほしい検査です。



【 放射線科 診療放射線技師 橋本 良平 】

「第3回JR仙台病院 糖尿病デー」 ～糖尿病をもっと知ろう～ 開催ご報告

世界糖尿病デー（11月14日）には、世界各地で糖尿病の予防・治療・療養の啓発活動が開催されます。当院では11月8日に開催しました。1階エントランスホールにパネルを展示、午後の体験コーナー（血糖測定、フットケア、唾液でストレスチェック、栄養相談）には多くの方が興味を持たれ行列ができました。また突田医師（内科）と西井医師（小児科）による糖尿病の理解を深める講演やリハビリテーション科による「座ってできる ～ながらエクササイズ」も行われました。今回初登場のロボットPepper君は参加された地域の方、外来や入院中の患者さまやご家族などを和やかな雰囲気にしていました。糖尿病を理解するきっかけになるイベントでした。



「第10回小さな絵画展」のご報告

東日本鉄道OB会仙台支部主催による「第10回小さな絵画展」が11月8日から22日まで開催されました。2F通路の展示スペースには、本格的な油絵や淡い色合いの水彩画などが描かれ、患者さまやご家族は足を止めて鑑賞していました。



「中学生の体験学習」のご報告

11月14日から3日間、中学生が職場体験をしました。病院には多様な職種があり、協力・連携しながら患者様の治療をしていることを学んで頂きました。



理念

高度で良質な医療と心のこもった患者サービスで地域社会に貢献し、調和のとれた企業立病院をめざします。

院 是
調 和

～ 基本方針 ～

1. 高度かつ良質な医療を提供し、地域医療機関との機能連携を強化して企業立病院として社会貢献します。
2. プライバシーの尊重と最善のアメニティに配慮し、安心と満足が得られる快適な療養環境を整備します。
3. 全スタッフが一丸となって心のこもった患者サービスを提供します。
4. 日々研鑽に努め、責任を持って仕事に携わる質の高い医療人を育成します。
5. 医療環境の変化に対応できる健全な医療経営に努めます。